

MORIOKA
SHINKIN

MMS

*Report of
Business forecasting*

vol.71

- 景況調査…1～12
- 特別調査
「原材料・仕入価格の上昇に伴う中小企業への影響について」…13～14
- お取引先企業様のご紹介

MORIOKA SHINKIN BANK

景況レポート

2008.4.22 発行

平成20年1月～3月期

平成20年4月～6月期 見通し

ホームページアドレス

<http://www.morishin.co.jp/>

調査の要領

(業種別調査企業数と回答数の内訳)

	対象企業	回答数
製造業	63	61
卸売業	25	24
小売業	96	92
飲食業	32	30
サービス業	54	54
運輸業	13	13
建設業	53	52
不動産業	20	20
合計	356	346

- 調査時期 3月上旬
- 調査内容 平成20年1月～3月の景況
平成20年4月～6月の見通し
- 調査方法 当金庫職員による聞き取り調査
- 調査対象 当金庫の取引先
- 回答数 346先(回答率97.19%)
(回収不能 10先)

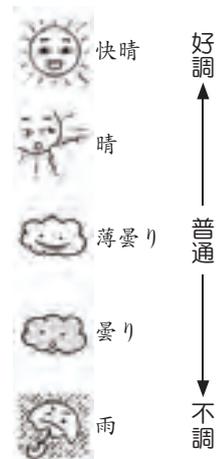
お忙しい中、ご協力いただきまして大変ありがとうございました。お問い合わせは最寄りの営業店、または企画部《☎(019)623-2221》までお願いします。

次回調査(6月上旬予定)にも、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

景況天気図

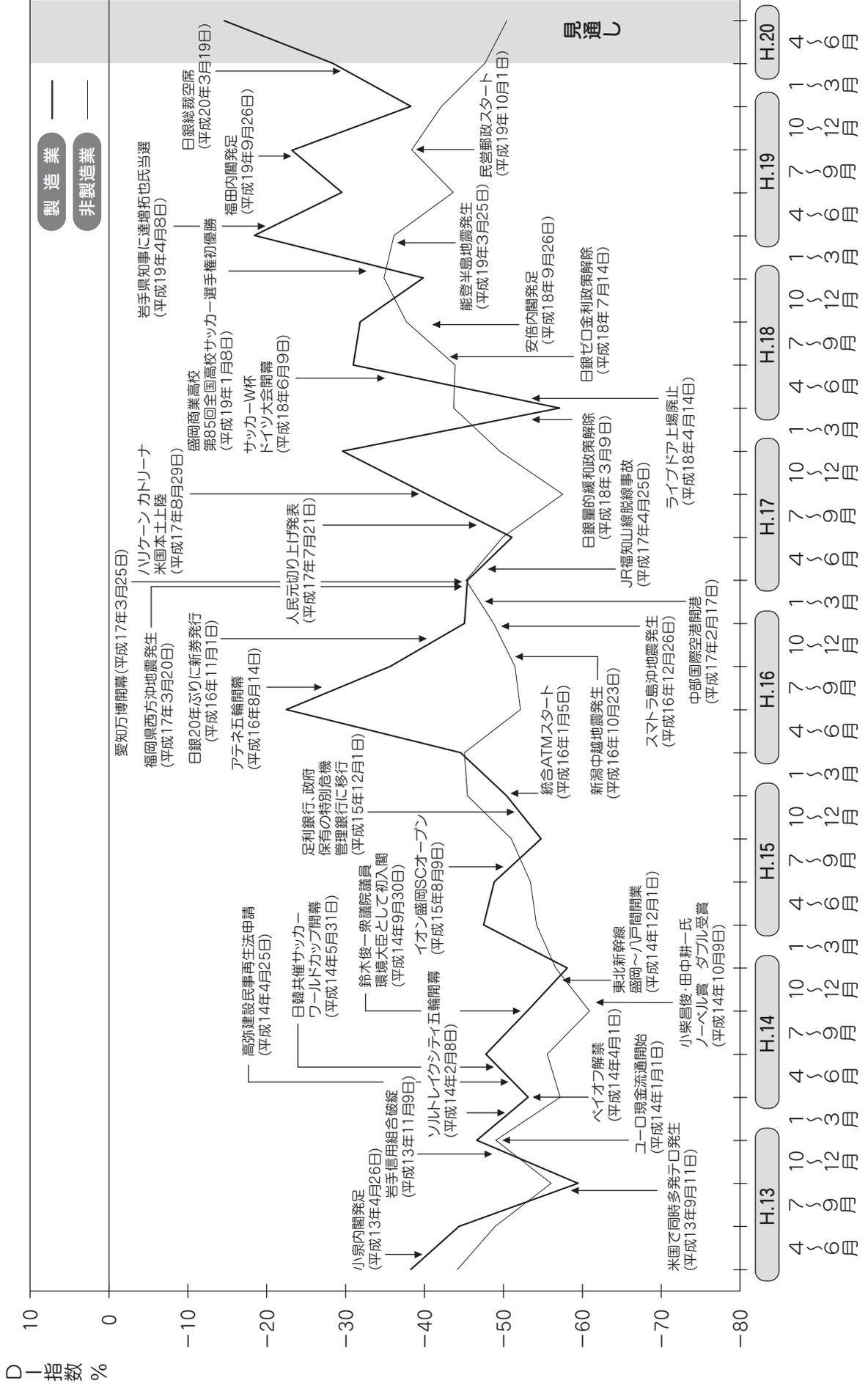
(景況調査の概況①)

	平成19年10～12月期	平成20年1～3月期	平成20年4～6月期 見通し
全業種 (総合)			
製造業			
卸売業			
小売業			
飲食業			
サービス業			
運輸業			
建設業			
不動産業			



※この天気図は景況指数を総合的に判断して作成したものです。

製造業と非製造業の業況判断D I (季節調整済)



景況総合判断指数(DI)

平成20年 1～3月

前期 *DI	当期(平成19年10月～12月期に比べて)				景況	見通し(平成20年4月～6月期)			
	増加	普通	減少	*DI		増加	普通	減少	*DI
-42	8	36	56	-45	業況	9	37	54	-44
-30	15	31	54	-26	売上高	21	33	46	-24
-38	9	33	58	-41	収益	14	39	47	-32
-9	16	63	21	-2	販売請負価格	16	67	17	-2
36	51	40	9	47	材料仕入価格	48	44	8	40
1	12	75	13	-2	在庫	10	78	12	-2
-39	3	51	46	-39	資金繰り	6	56	38	-35
-13	10	72	18	-7	残業時間	8	76	16	-6
-10	11	67	22	-11	人手	11	69	20	-13
-5	6	77	17	-12	設備の状況	5	78	17	-11

*DI(Diffusion Index)は、増加企業割合から減少企業割合を差し引き、不変(普通)部分を除いて景況を判断しようとするものです。

*「季節調整済DI」は、1年を周期として季節的な変動を繰り返すDIから、季節の変動を除去した動向指数です。

増加・普通・減少は右のように置き換えます。

	増加	普通	減少
業況	良い	普通	悪い
価格	上昇	変わらず	下降
在庫・人手・設備の状況	過剰	適正	不足
資金繰り	楽	変わらず	苦しい

業種別業況動向

(景況調査の概況②)

	平成19年10～12月期		平成20年1～3月期		平成20年4～6月期	
	実績	前期予想	実績	前期予想	見通し	
全業種(総合)	-42	-41	-45	-40	-44	—
製造業	-38	-40	-28	-34	-14	—
卸売業	-26	-36	-33	-12	-32	—
小売業	-50	-44	-47	-44	-44	—
飲食業	-57	-56	-61	-40	-63	—
サービス業	-27	-28	-45	-45	-55	—
運輸業	-50	-26	-69	-45	-84	—
建設業	-41	-44	-42	-44	-53	—
不動産業	-48	-46	-62	-46	-49	—

*DIは季節調整済

*それぞれの右欄は前期に予想したDIを示す

景況

◆景況はひきつづき悪化傾向を強める

今期(平成20年1月～3月期)の景況は、全業種総体では前期にひきつづき、悪化傾向が強まりました。業種別では製造業、小売業で悪化傾向を弱めましたが、その他の業種では後退しました。

業況判断指数(季節調整済DI)は、全業種で-45と前期の-42から3ポイント下降し悪化傾向を強めました。製造業は-28と前期の-38から10ポイント上昇し悪化傾向を弱めました。また非製造業も小売業を除く卸売業、飲食業、サービス、運輸業、建設業、不動産業が下降し、全体として、今期-51と前期-40から11ポイント下降し悪化傾向を強めました。

売上額は、-26と前期の-30から4ポイント上昇し減少傾向を弱めました。

収益は、-41と前期の-38から3ポイント下降し減少傾向を強めました。

価格面は、販売価格が-2と前期の-9から7ポイント上昇し、仕入価格も47と前期36から11ポイント上昇しました。

資金繰りは、-39と横ばいで推移しており、窮屈感は続いています。

業種別の業況は、製造業が10ポイント、小売業が3ポイント上昇し悪化傾向を弱めたのに対し、卸売業が7ポイント、飲食業が4ポイント、サービス業が18ポイント、運輸業が19ポイント、建設業が1ポイント、不動産業が14ポイントそれぞれ下降し、悪化傾向を強めました。

経営上の問題点は、「売上の停滞・減少」が66%と4ポイント上昇し、「同業者間の競争の激化」は37%と3ポイント下降し、「利幅の縮小」は29%と2ポイント下降しました。

来期の見通し

◆景況は緩やかに改善

来期(平成20年4月～6月期)の景況は、総体的には横ばいに推移するとみています。業種別では飲食業、サービス業、運輸業、建設業で悪化傾向を強めますが、その他の業種で悪化傾向を弱めるとみています。

業況判断指数は、-44と今期に比べ1ポイントわずかに悪化傾向を弱めるとみています。

売上額は、-24と今期に比べ2ポイント減少傾向を弱め、収益は-32と今期に比べ9ポイント上昇し、減少傾向を弱めるとみています。

価格面では、販売価格は-2と横ばいで推移するとみていますが、仕入価格は40と7ポイント下降し、利幅は増加するとみています。

資金繰りは-35と今期に比べ4ポイント上昇し窮屈感は緩和するとみています。

業種別の業況判断は、飲食業、サービス業、運輸業、建設業で悪化傾向を強めますが、製造業、卸売業、小売業、不動産業で悪化傾向を弱めるとみています。

雇用の動き

人手は、今期-11と1ポイントわずかに不足傾向を強めました。来期は-13とさらに不足傾向を強めるとみています。

残業時間は、今期-7と前期-13に比べて6ポイント増加しますが、来期は-6と1ポイント増加しわずかに減少傾向を弱めるとみています。

在庫、設備投資の動き

在庫は、今期-2と3ポイント不足傾向を強めました。来期は-2と横ばいで推移するとみています。

設備の状況は、今期-12と7ポイント不足感を強めました。来期は-11と1ポイントわずかに不足感を弱めるとみています。設備投資を実施した先は、今期、全業種総体で車両を中心に18%で前期に比べて2ポイントに増加しました。来期は機械設備の更改を中心に13%の先が実施予定とし、今期に比べ5ポイント減少するとみており、依然投資意欲は低い状態が続くそうです。

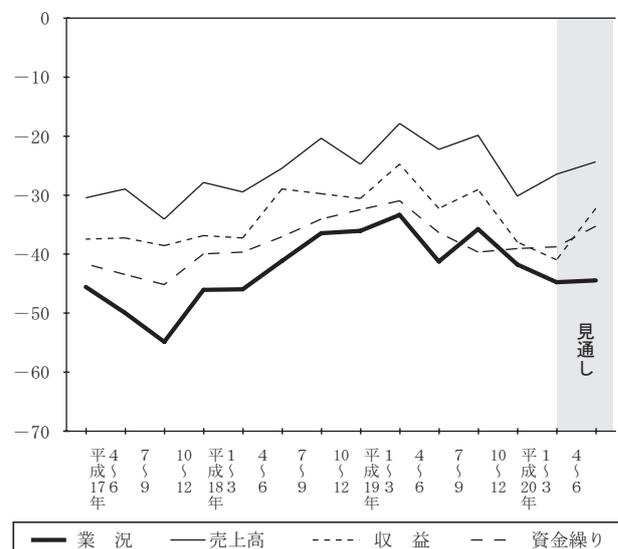
業種別では、今期小売業、飲食業、サービス業で上昇しましたが、卸売業と建設業は横ばい、製造業、運輸業で減少しました。来期は運輸業が上昇し、卸売業は横ばいで推移するとみていますが、その他の業種で減少するとみており、総体的に投資意欲はさらに弱まりそうです。

借入金の状況については、今期借入れ実施割合が5割を超えたのは前期と同じく卸売業のみで、8ポイント増加しました。製造業で8ポイント、飲食業で7ポイント、不動産業で10ポイント上昇しましたが、小売業、サービス業、運輸業で横ばい、建設業で4ポイント下降しました。全業種総体では29%の実施となり2ポイント上昇しました。来期は飲食業、運輸業、不動産業で上昇しますが、製造業、卸売業、小売業、サービス業、建設業で減少し、全業種総体では5ポイント減少の24%の先が借入を予定しています。

借入れの難易度は、「難しい」が21%と3ポイント下降しました。

■景況の推移

*前期比：DI・季節調整済





* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、出版・印刷・同関連産業、建設用・建設用金属製品製造業、その他製造業で悪化傾向を弱め、木材・木製品製造業、家具・装備品製造業、窯業・土石製品製造業は横ばいで推移しました。一方食品製造業で悪化傾向を強めました。売上額、収益はともに減少傾向を弱めました。価格面では、販売価格、原材料価格とも上昇傾向を強めました。原材料在庫は不足に転じ、資金繰りは窮屈感が弱まりました。残業時間は減少傾向を大きく弱め、人手は不足感が強まりました。設備の状況は不足感を強めました。設備投資を実施した先は機械設備の新・増設を中心に20%と、前期より1ポイントわずかに減少しました。

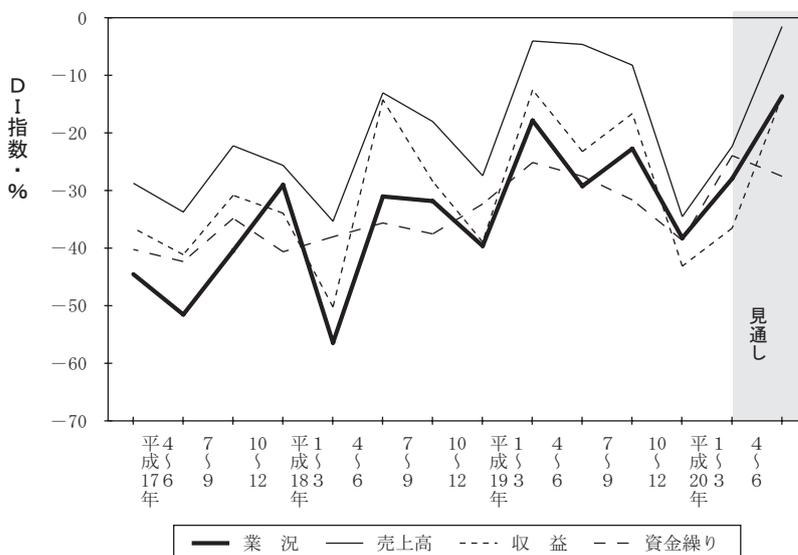
来期の見通し

業況は、-14と14ポイントさらに悪化傾向が弱まるとみえています。出版・印刷・同関連産業が悪化傾向を強めますが、食品製造業、木材・木製品製造業、家具・装備品製造業、建設用・建設用金属製品製造業、その他製造業で悪化傾向を弱めるとみており、全体的には来期も悪化傾向を弱めそうです。売上額、収益はともに減少傾向を弱めるとみえています。価格面では、販売価格、原材料価格とも上昇傾向を弱めるとみえています。原材料在庫は不足感が弱まりそうです。資金繰りは窮屈感が強まるとみえています。残業時間は増加傾向に転じ、人手は不足感が強まるとみえています。設備の状況は不足感がやや強まるとみており、設備投資については機械設備の更改を中心に15%の先が実施の予定となっています。今期に比べて投資意欲が低下しそうです。

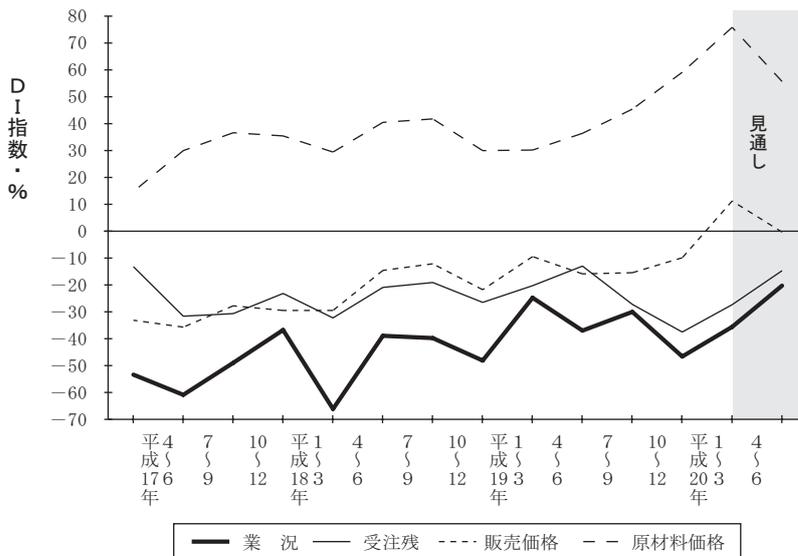
調査員のコメント

- 時季による変動はあるものの一年を通じて、ますます安定した需要がある。(こんにやく製造)
- 原材料高騰はあるものの、新規取引先の開拓により売上増加している。今後も提携先と協力し販路拡大に努める。(豊製造販売)

■ 景況の推移



■ 主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

○今期(20年1月~3月) / ●前期(19年10月~12月期)

△100 △90 △80 △70 △60 △50 △40 △30 △20 △10 0 10 20 30 40

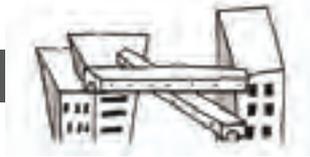
業種	業況	DI推移
食料品	業況	●(前期) → ○(今期)
その他製造業	業況	●(前期) → ○(今期)
出版・印刷・同関連産業	業況	●(前期) → ○(今期)

経営上の問題点	1位	61%
	2位	52%
	3位	25%

当面の重点経営施策	1位	67%
	2位	54%
	3位	21%

* ()は前回順位

卸売業



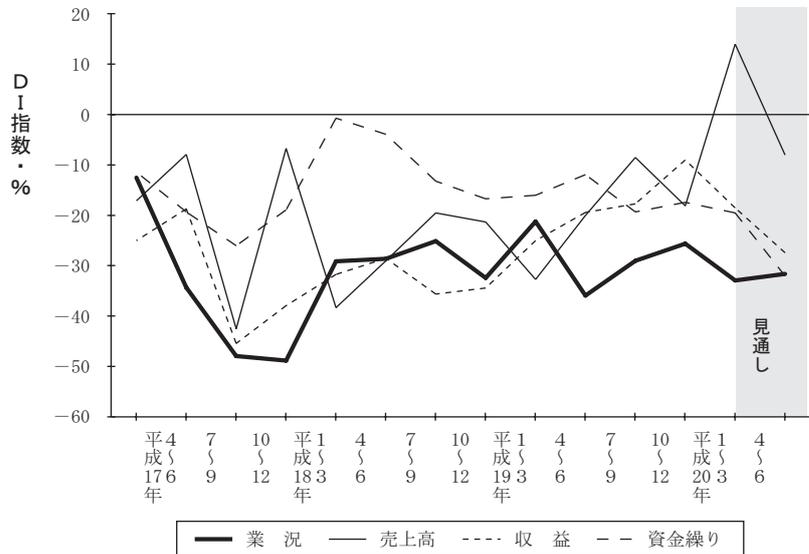
◎業況は、小幅な改善

* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、建築材料卸売業で大きくプラスに転じ、その他卸売業は良好傾向を強めました。一方農畜産物・水産物卸売業、食料・飲料卸売業、機械器具卸売業は悪化傾向を強めたため、全体的には悪化傾向を強めました。売上額は上昇傾向に転じ、収益は減少傾向を強めました。価格面では、販売価格、仕入価格ともに上昇傾向を強めました。在庫は過剰感を強め、資金繰りは窮屈感が強まりました。残業時間は増加傾向を弱め、人手は不足感が大きく弱まりました。設備の状況は過剰感に転じ、設備投資は車両を中心に17%と横ばいで推移しました。

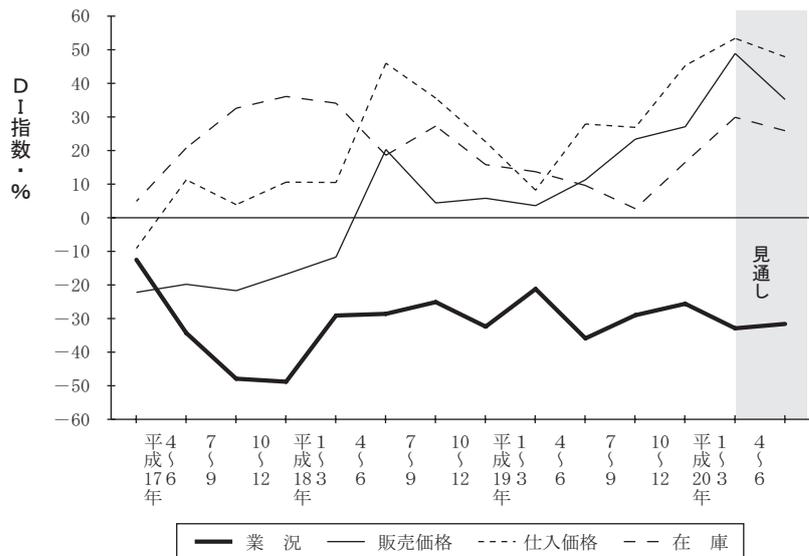
■景況の推移



来期の見通し

業況は、農畜産物・水産物卸売業、食料・飲料卸売業、機械器具卸売業で悪化傾向を弱めるとみており、建築材料卸売業で大きく悪化傾向を強めそうですが、全体としては-32と1ポイントわずかに悪化傾向が弱まるとみています。売上額、収益はともに減少傾向を強めそうです。価格面では、販売価格、仕入価格ともに上昇傾向が弱まりそうです。在庫は過剰感が弱まるとみています。資金繰りは窮屈感が強まるとみています。残業時間は減少傾向に転じ、人手は横ばいで推移するとみています。設備の状況は横ばいで推移しそうです。設備投資については車両を中心に17%の先が実施予定とし、横ばいで推移するとみています。

■主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

○今期(20年1月~3月) / ●前期(19年10月~12月期)

業種	業況	DI変化
農畜産物・水産物	業況	○ ← ● (悪化)
食料・飲料	業況	○ ← ● (悪化)
機械器具	業況	○ ← ● (悪化)

調査員のコメント

- 売上順調であるが、安価な商品が多く利幅は小さい。経費削減に努め、利益確保するよう努力している。(酒類卸売業)
- 仕入価格上昇により売上収益への影響が大きく、業況やや苦しいと思われる。(紙製品卸売業)

順位	課題	社数(%)
1位	売上の停滞・減少(1)	17社(71%)
2位	同業者間の競争の激化(2)	14社(58%)
3位	利幅の縮小(3)	11社(46%)

順位	施策	社数(%)
1位	経費を節減する(2)	19社(79%)
2位	販路を広げる(1)	15社(63%)
3位	情報力を強化する(3)	13社(54%)

* ()は前回順位 * 対象企業総数は24社

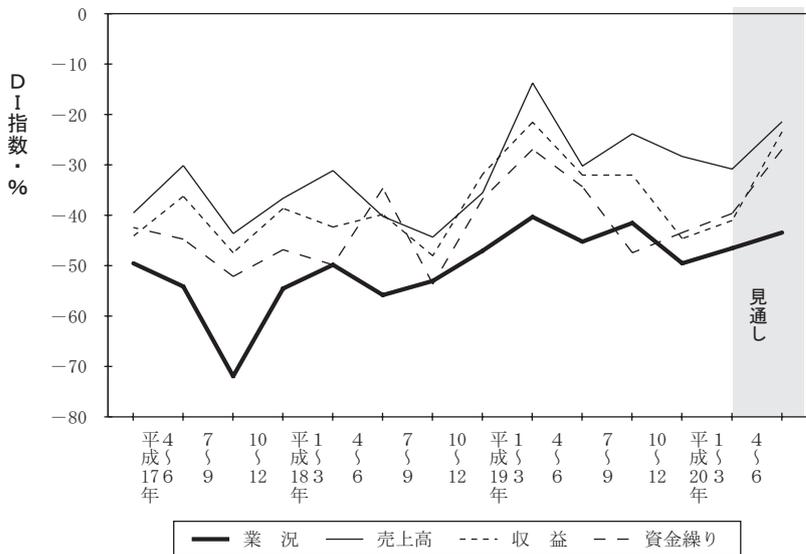


* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、飲食料品小売業、医薬品・化粧品小売業、燃料小売業、書籍・文房具小売業、その他小売業で悪化傾向を弱めました。一方繊維・衣服・身の回り品小売業、自動車・自転車小売業、写真機・時計・眼鏡・貴金属小売業で悪化傾向を強めました。売上額は減少傾向を強め、収益は減少傾向を弱めました。価格面では、販売価格、仕入価格ともに上昇傾向を強めました。在庫は横ばいで推移し、資金繰りは窮屈感を弱めました。残業時間は減少傾向を強め、人手は若干不足感を弱めました。設備の状況は不足感が強まり、設備投資を実施した先は事務機器を中心に、全体では15%と前期に比べ4ポイント増加しました。

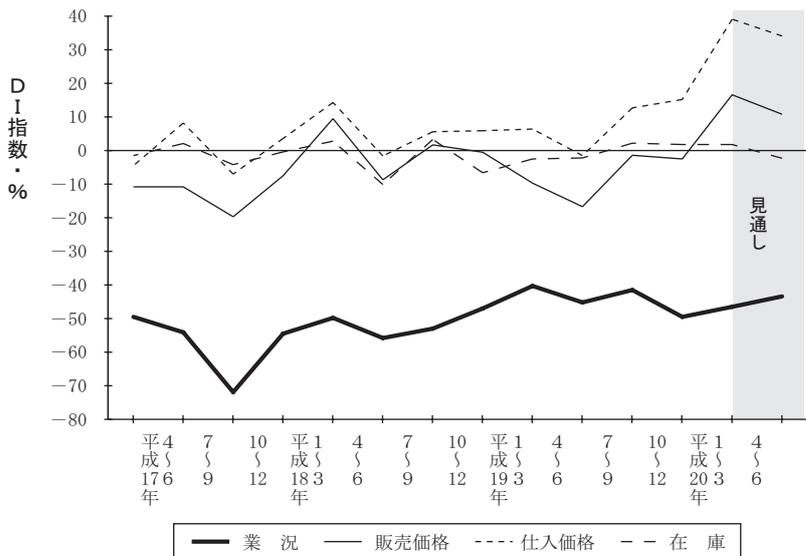
■景況の推移



来期の見通し

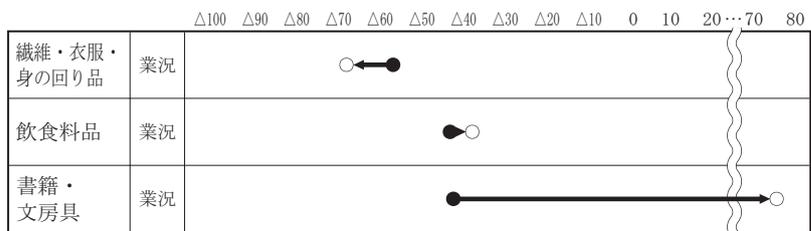
業況は、繊維・衣服・身の回り品小売業、食料品小売業、自動車・自転車小売業、家庭用機械・電気機械器具小売業、写真機・時計・眼鏡・貴金属小売業で悪化傾向を弱めそうです。一方燃料小売業、書籍・文房具小売業、その他小売業で悪化傾向を強め、全体的には-44と今期に続き3ポイント悪化傾向を弱めそうです。売上額、収益はともに減少傾向を弱めそうです。価格面では、販売価格、仕入価格とも上昇傾向が弱まりそうです。在庫は不足感に転じ、資金繰りは窮屈感が緩和されるとみえています。残業時間は減少傾向を弱めそうですが、人手は不足感が強まりそうです。設備の状況は横ばいでは推移するとみえています。設備投資については、車輛を中心に実施予定が10%と今期に比べて5ポイント減少するとみており、投資意欲は低迷状態が続くそうです。

■主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

○今期(20年1月~3月) / ●前期(19年10月~12月期)



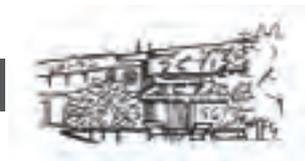
調査員のコメント

- 冬期間は花で安定した収入を得ており、種は3月より本格シーズンを迎える。インターネット販売を使い同業者間の連携も確保しており幅広い販売をしている。(種苗、花小売業)
- 仕入価格が大幅に上昇していて、大変競争相手も多く利益率も悪い。(燃料小売業)

経営上の問題点	1位	67%
	売上の停滞・減少(1)	67%
	大型店との競争の激化(2)	39%
3位	同業者間の競争の激化(4)	30%

当面の重点経営施策	1位	62%
	経費を節減する(1)	62%
	品揃えを改善する(2)	32%
2位	売れ筋商品を取り扱う(3)	32%

*()は前回順位



* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、-61と4ポイント悪化傾向を強めました。売上額、収益はともに横ばいで推移し、価格面では、販売価格は-10と2ポイント下降傾向を弱めました。仕入価格は55と21ポイントと大きく上昇しました。在庫は横ばいで推移し、資金繰りは-56と1ポイントわずかに窮屈感を弱めました。残業時間は-3と13ポイント減少傾向を弱め、人手は-10と9ポイント不足感を弱めました。設備の状況は-16と5ポイント不足感を弱めました。前期は設備投資実施なく、今期は7%の先が実施しました。

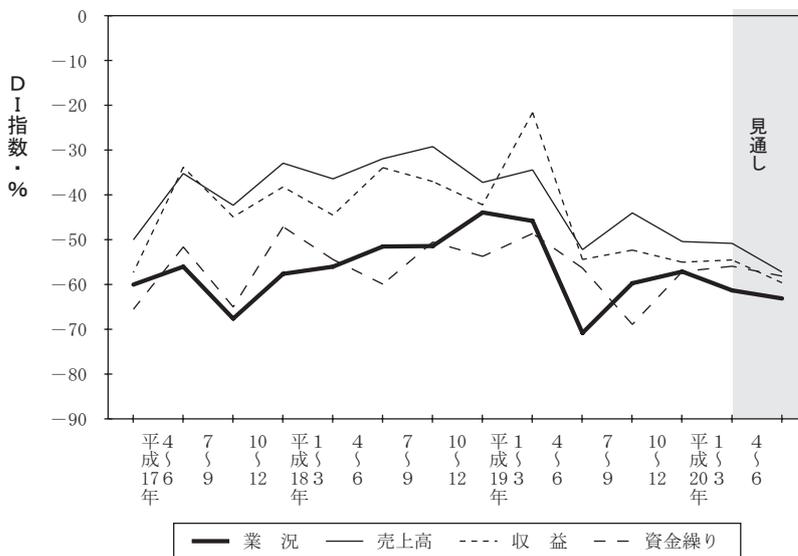
来期の見通し

業況は-63と今期に比べ2ポイント悪化傾向が強まるとみています。売上、収益はともに減少傾向を強めそうです。価格面では、販売価格は下降傾向を弱め、仕入価格は上昇傾向が強まるとみています。在庫は不足感が弱まりそうです。資金繰りは若干窮屈感が強まるとみています。残業時間は減少傾向を強め、人手は不足感を強めそうです。設備の状況はほぼ横ばいで推移するとみています。設備投資については、来期実施予定なく、今期に比べて7ポイント減少するとみています。

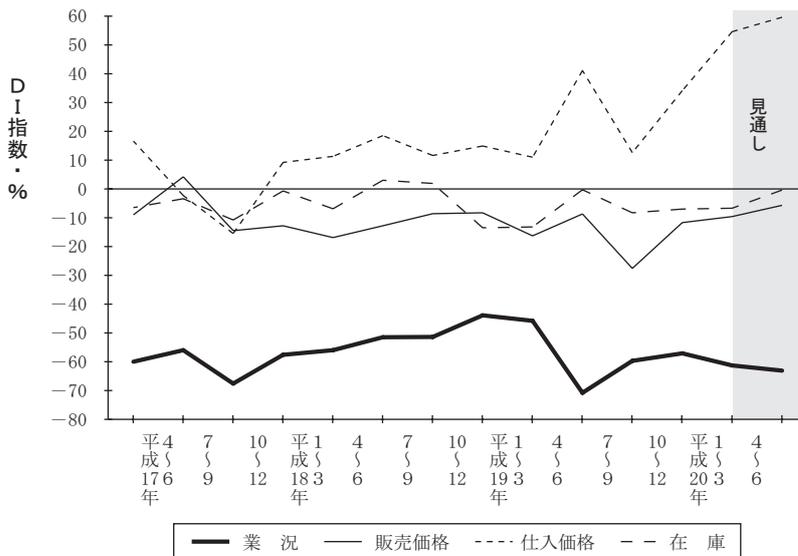
調査員のコメント

- 冠婚葬祭に力を入れており、予約数も増加してきている。今後はイベント等に力を入れ業況の安定化を図っている。(料亭 飲食業)
- 前年に比べて売上、収益とも上昇しており、昼食については固定客があり順調であるが、夜の宴会に波がある。材料費の値上がりや人手不足が問題点としている。(居酒屋 飲食業)

■ 景況の推移



■ 主な指標の動き



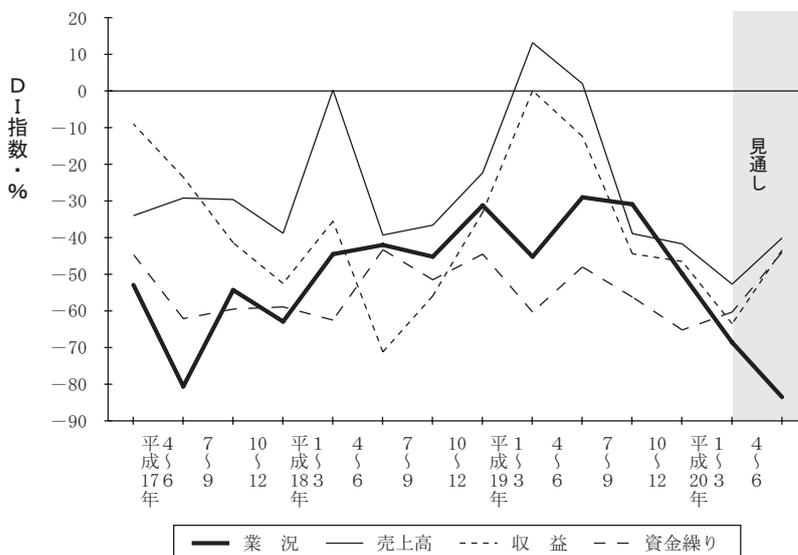


* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、-69と19ポイント悪化傾向を強めました。売上額は-53と11ポイント減少傾向を強め、収益も-64と17ポイント減少傾向を強めました。価格面では、料金価格は-20と18ポイント下降傾向を弱め、材料価格は48と11ポイント上昇傾向を弱めました。資金繰りは5ポイント窮屈感を弱めました。残業時間は16ポイント減少傾向を弱め、人手は56ポイント過剰感を強めました。設備の状況は3ポイント過剰感が強まり、今期設備投資を実施した先はなく以前低迷したままです。

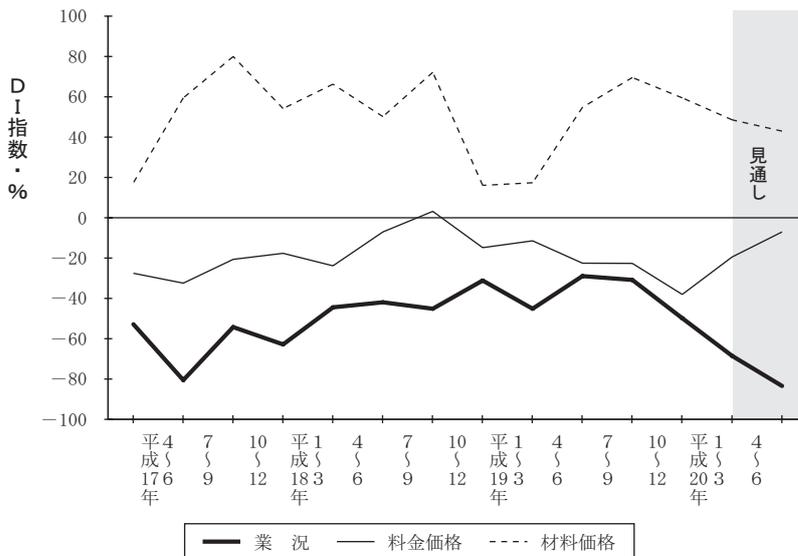
■景況の推移



来期の見通し

業況は、-84と今期に比べて15ポイント悪化傾向が強まるとみています。また売上額、収益も減少傾向を弱めるとみています。価格面では、料金価格は下降傾向を弱め、材料価格は上昇傾向を弱めるとみています。資金繰りは窮屈感が弱まるとみておりますが、依然窮屈な状態が続きそうです。残業時間は減少傾向が強まりそうです。人手は不足に転じるとみています。設備の状況は過剰感が強まりそうです。設備投資については車両で8%の先が実施予定としています。

■主な指標の動き



調査員のコメント

- 燃料代の高騰によりコスト高から資金繰り多忙となっている。今後取引先との価格交渉を進め利益確保に注力していく方針である。
(材木運送業)
- ガソリンの高騰で膨らんだ経費を人件費削減により、カバーしている状況である。
(旅客運送業)





* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、洗濯・理容・浴場業で1ポイントわずかに悪化傾向を弱め、その他サービス業は横ばいで推移しましたが、旅館・その他の宿泊所、自動車整備・駐車場業、情報サービス・調査・広告業が悪化傾向を強めました。全体としては-45と18ポイント悪化傾向を強めました。売上額、収益はともに減少傾向を強めました。価格面では、料金価格が減少傾向に転じ、材料価格は上昇傾向を強めました。資金繰りは窮屈感を強めました。残業時間は減少傾向を弱め、人手は不足感を強めました。設備の状況は不足感を強めました。設備投資を実施した先は、機械設備の更改を中心に32%と前期に比べて6ポイント増加しました。

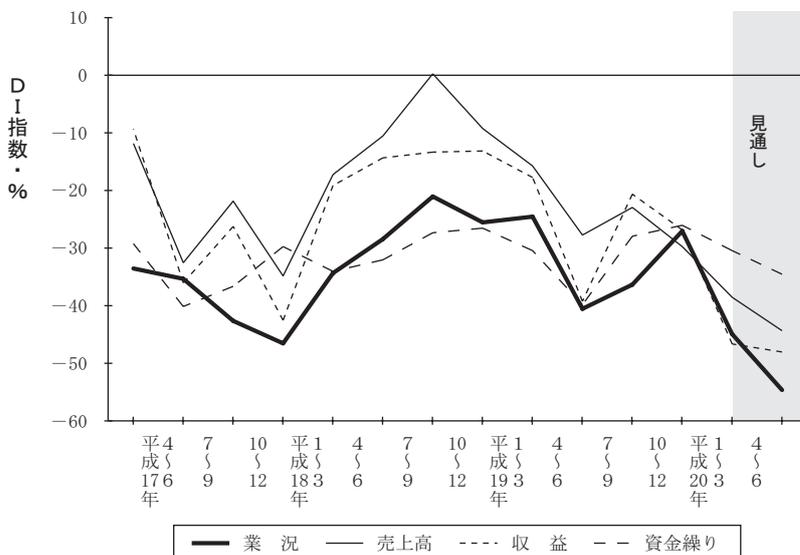
来期の見通し

業況は、今期に続き全業種で悪化傾向を強めるとみており、全体的には-55と10ポイント悪化傾向が強まりそうです。売上額、収益はともに減少傾向を強めるとみています。価格面では、料金価格はほぼ適正内となりそうですが、材料価格は上昇傾向が弱まりそうです。資金繰りは窮屈感がさらに強まり、依然窮屈な状態は続くとみています。残業時間は減少傾向を強め、人手は不足傾向が弱まるとみています。設備の状況は不足感がわずかに強まりそうです。設備投資については機械設備の更改を中心に26%の先が実施予定としておりますが、今期に比べて6ポイント減少するとみています。

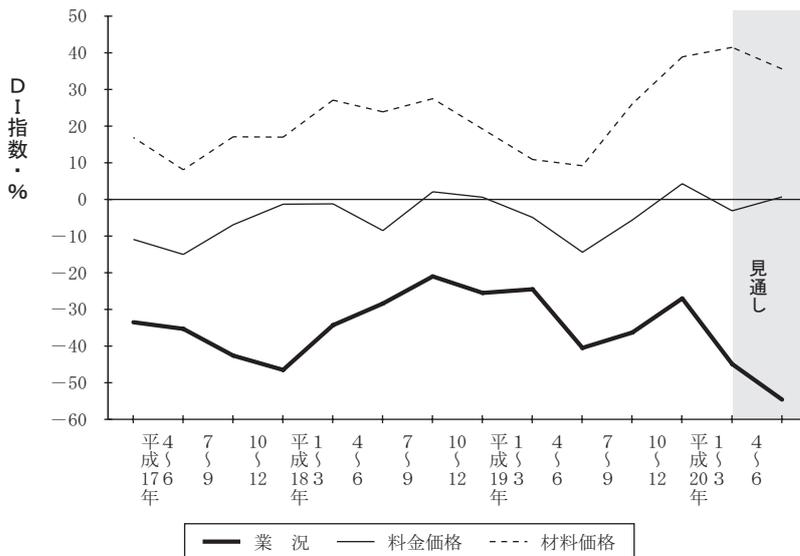
調査員のコメント

- 業況、収益、売上等に変化はないようだが、最近の原材料、仕入価格の上昇は多少影響が出て来ている。その点を踏まえて、経費の削減や技術力を強化し収益を上げていく必要がある。(美容業)
- 原油価格の高騰は利益を減少させ、それを他に転嫁できず経営を圧迫している。(初心運転者指導)

■景況の推移

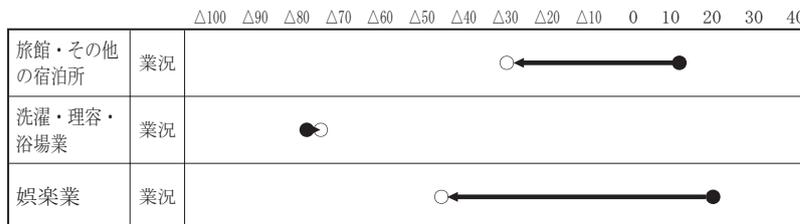


■主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

○今期(20年1月~3月) / ●前期(19年10月~12月期)



経営上の問題点	1位	売上	割合
	2位	同業者間の競争の激化(2)	33%
	3位	材料価格の上昇(4)	24%

当面の重点経営施策	1位	経費を節減する(1)	割合
	2位	販路を広げる(2)	35%
	3位	技術力を強化する(5)	24%

*()は前回順位

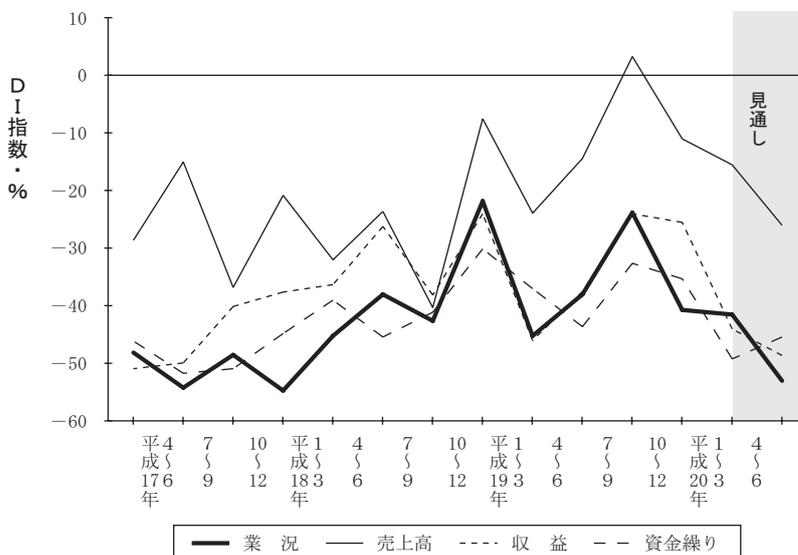


*前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、設備工事業で悪化傾向を弱めましたが、総合工事業は4ポイント、職別工事業は19ポイント悪化傾向を強め、全体としては-42と1ポイントわずかに悪化傾向を強めました。売上額、収益はとも減少傾向を強めました。受注残は4ポイント減少傾向を弱め、施工高は4ポイント減少傾向を強めました。価格面では、請負価格は下降傾向が強まり、材料価格は上昇傾向が弱まりました。資金繰りは窮屈感が強まりました。残業時間は減少傾向が弱まり、人手は不足感が大きく強まりました。設備の状況は不足感が強まりました。設備投資を実施した先は事業用土地建物を中心に19%と横ばいで推移しました。

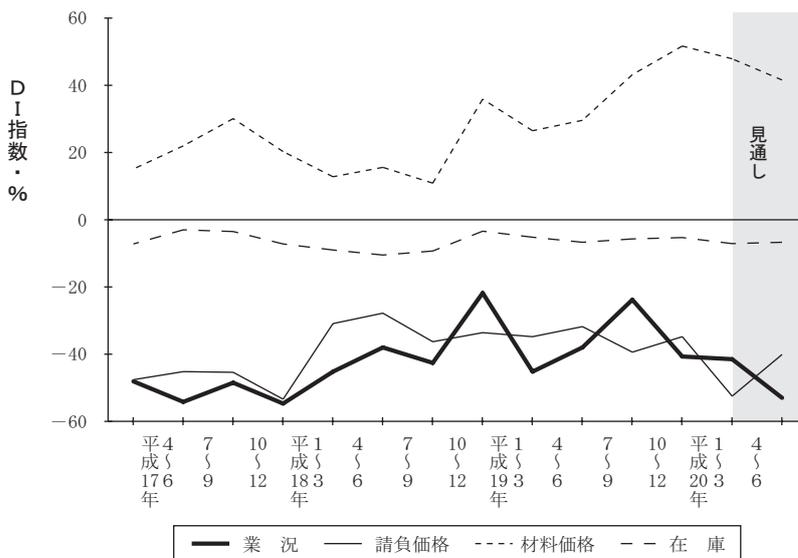
■景況の推移



来期の見通し

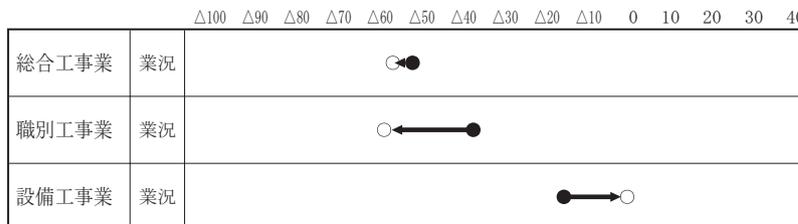
業況は、設備工事業で38ポイント大きく悪化傾向を強めるほか、総合工事業、職別工事業でも若干悪化傾向を強めるとみています。全体としては-53と11ポイント悪化傾向を強めるとみています。売上額、収益ともに減少傾向を強め、また受注残、施行高も減少傾向を強めるとみています。価格面では、請負価格は下降傾向を弱めそうですが、材料価格は上昇傾向を弱めると見ています。資金繰りは窮屈感が緩和されそうです。残業時間は減少傾向が強まり、人手は不足感が弱まるとみています。設備の状況は不足感が弱まりそうです。設備投資については事業用土地建物を中心に12%の先が実施予定としていますが、今期より7ポイント減少し投資意欲は減退しそうです。

■主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

○今期(20年1月~3月) / ●前期(19年10月~12月期)



調査員のコメント

■業界自体が低迷している中、業況無難に推移している。共同企業体による建設工事も確保されているが、同業者間の競合や材料価格の上昇等の影響があり、売上、収益ともに減少が見込まれる。

(総合工事業)

■原材料・仕入価格の上昇が続いており収益減少、業況悪化の要因となっている。販売価格への転嫁も検討して改善を図る。

(総合工事業)

経営上の問題点	1位	
	同業者間の競争の激化(2)	60%
	2位	売上の停滞・減少(1)
3位	利幅の縮小(3)	50%

当面の重点経営施策	1位	
	経費を節減する(1)	77%
	2位	販路を広げる(2)
3位	情報力を強化する(3)	38%

* ()は前回順位

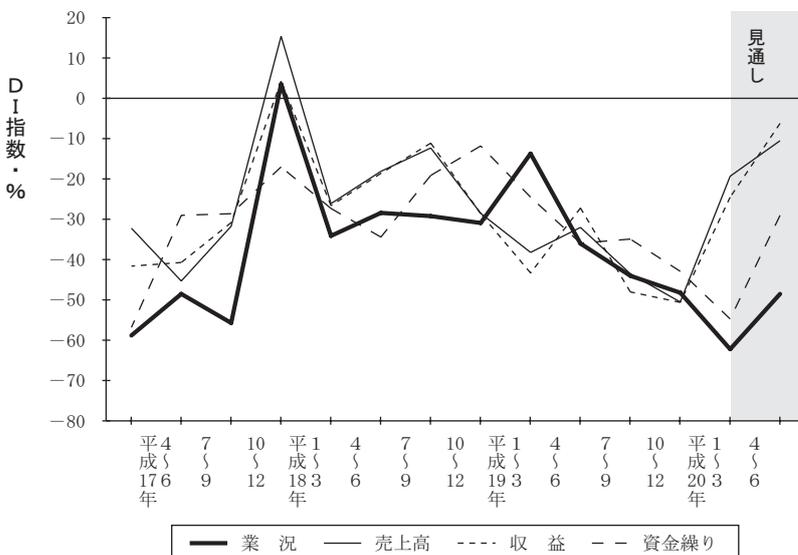


*前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、貸家業・貸間業で61ポイント大きく悪化傾向を強めたほか、不動産代理業・仲介業でも14ポイント悪化傾向を強めました。一方、建売業・土地売買業で43ポイント大きく悪化傾向を弱めました。全体としては-62と14ポイント悪化傾向を強めました。売上額、収益はともに減少傾向を弱めました。価格面では、販売価格は下降傾向を弱め、仕入価格は下降傾向を強めました。在庫は不足感を強めました。資金繰りは窮屈感を強めました。残業時間は減少傾向に転じましたが、人手は不足感が強まりました。

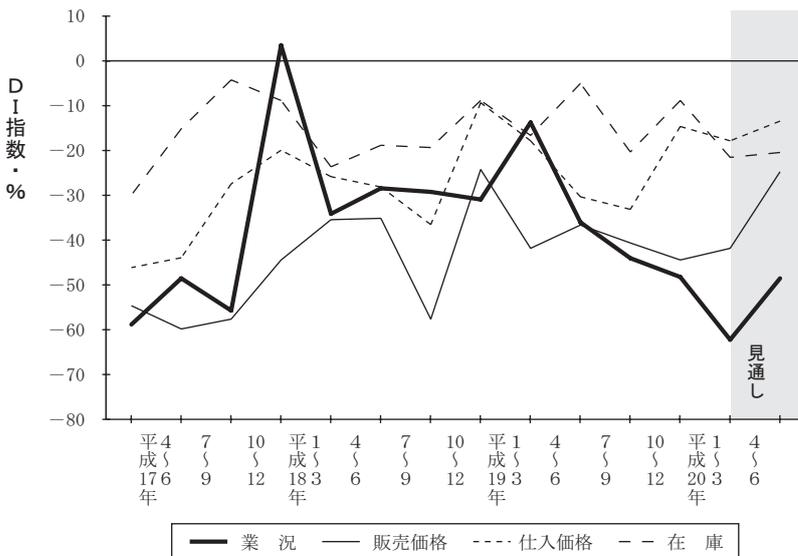
■景況の推移



来期の見通し

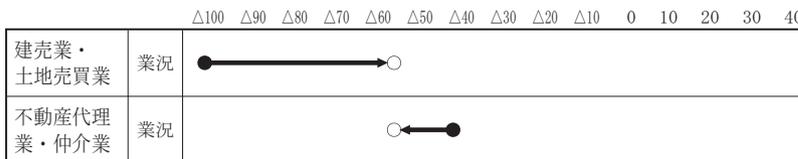
業況は、貸家業・貸間業、不動産代理業・仲介業で悪化傾向を強めるとみえますが、建売業・土地売買業は悪化傾向を弱めるとみており、全体としては-49と今期に比べて13ポイント悪化傾向が弱まりそうです。売上額、収益はともに減少傾向が弱まるとみえています。価格面では、販売価格、仕入価格ともに下降傾向が弱まるとみえています。資金繰りは窮屈感が弱まるとみえますが、依然窮屈感は続きそうです。在庫は不足感が若干弱まるとみえています。残業時間は増加傾向に転じそうですが、人手は不足感を弱めるとみえます。

■主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

○今期(20年1月~3月) / ●前期(19年10月~12月期)



調査員のコメント

- 不動産取引が低調で売上げが伸び悩んでいる。また中期の案件が不足しており営業力強化による販路拡大が課題である。
(建売業・土地売買業)
- 4～6月の収益はやや減少と予想しているが、販路拡大や提携先を見つけるなど努力している。
(不動産代理業・仲介業)

経営上の問題点	1位	売上の停滞・減少(1)	15社 (75%)
	2位	利幅の縮小(2)	13社 (65%)
	3位	同業者間の競争の激化(3)	6社 (30%)
		商品物件の不足(4)	6社 (30%)

当面の重点経営施策	1位	情報力を強化する(1)	14社 (70%)
	2位	販路を広げる(3)	9社 (45%)
		経費を節減する(2)	9社 (45%)

* ()は前回順位 * 対象企業総数は20社

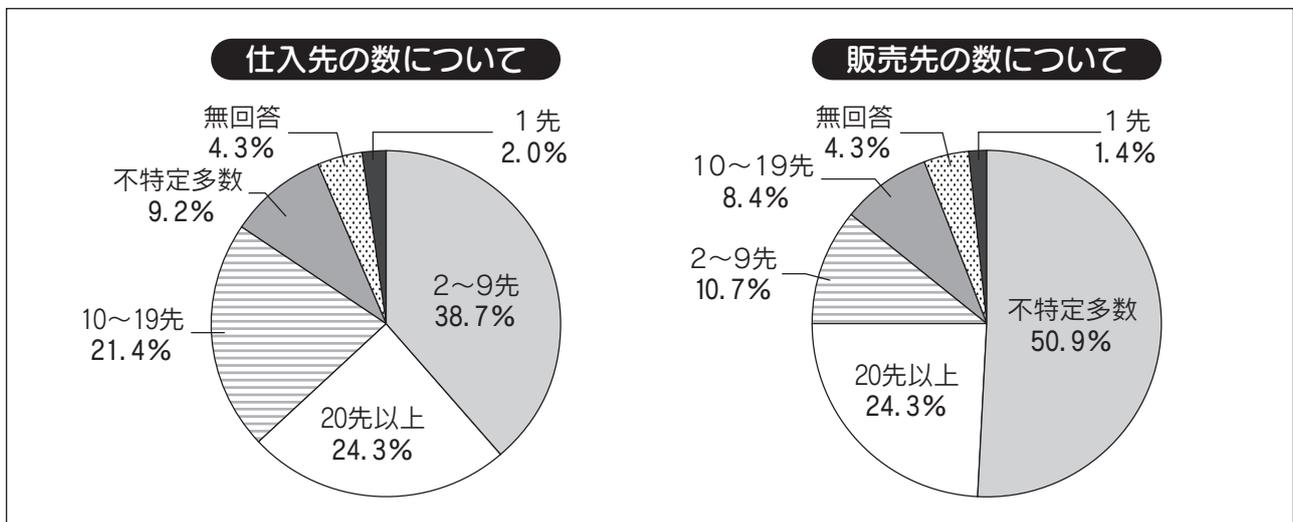
特別調査

原材料・仕入価格の上昇に伴う 中小企業への影響について

サブプライムローン問題や原油・原材料価格の高騰などによる景気減速懸念に加え、公共工事の減少・個人消費の伸び悩みなどから、中小企業では対応に苦慮しています。そのような状況のなか、「原材料・仕入価格の上昇に伴う中小企業への影響について」お聴きいたしました。
(回答数346先)

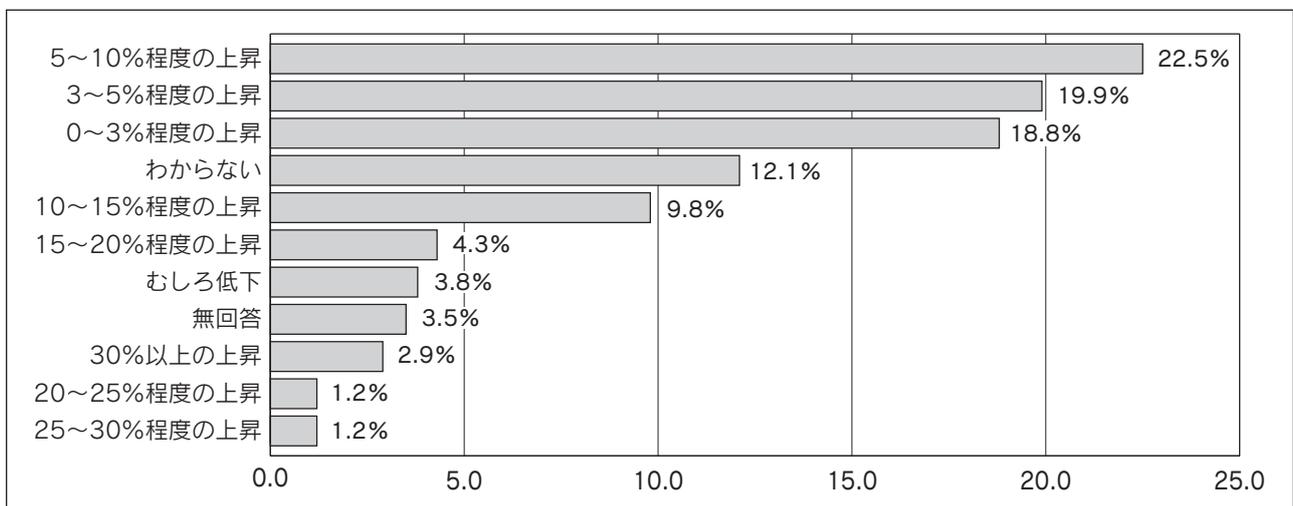
■取引先の数について 仕入先(原料・材料購入先)の数…「2～9先」が39% 販売先の数…「不特定多数」が51%

仕入先(原料・材料購入先)の数については、「2～9先」が38.7%と最も多く、次いで「20先以上」24.3%、「10～19先」21.4%となっています。また、販売先の数については、「不特定多数」が50.9%と最も多く、次いで「20先以上」が24.3%、「2～9先」が10.7%となっています。



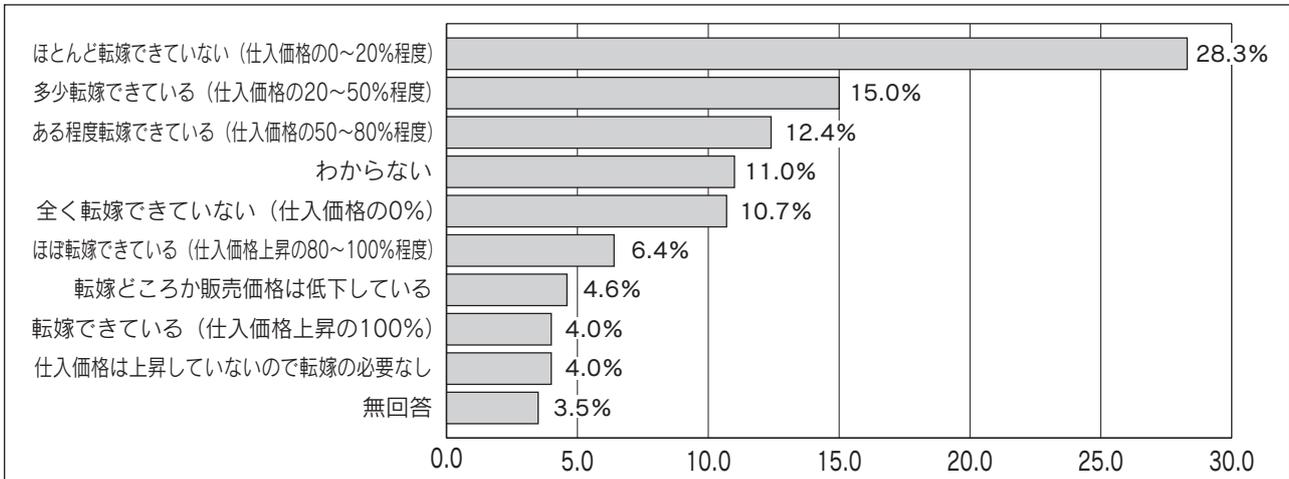
■原材料・仕入価格は、1年前と比較してどの程度変化しましたか …「5～10%程度の上昇」が23%

中小企業の原材料・仕入価格がどの程度変化したかをみると、80.6%の企業が1年前と比較して上昇したと回答しています。上昇幅をみると「5～10%程度の上昇」が22.5%と最も多く、次いで「3～5%程度の上昇」が19.9%、「0～3%程度の上昇」が18.8%となっています。



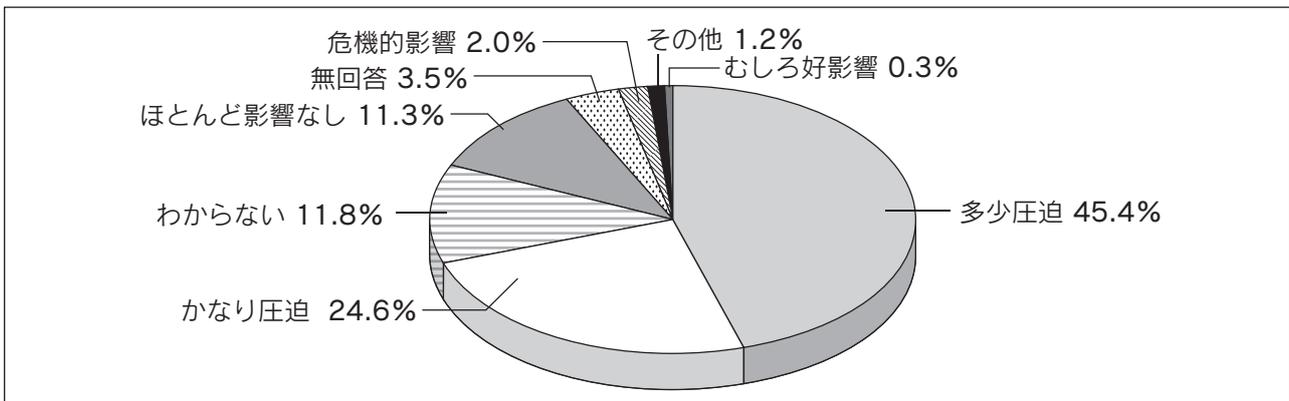
■ 原材料・仕入価格の上昇を販売価格にどの程度転嫁できていますか …「ほとんど転嫁できていない(仕入価格の0~20%程度)」が28%

原材料・仕入価格の上昇を販売価格にどの程度転嫁できているかについては、「転嫁できている(仕入価格上昇の100%)」とする回答は4.0%で、「ほぼ転嫁できている(仕入価格上昇の80~100%)」が6.4%で合わせて1割に過ぎません。一方「ほとんど転嫁できていない(仕入価格の0~20%程度)」が28.3%と最も多い割合を占め、「全く転嫁できていない」が10.7%、「転嫁どころか販売価格は低下している」が4.6%となっています。



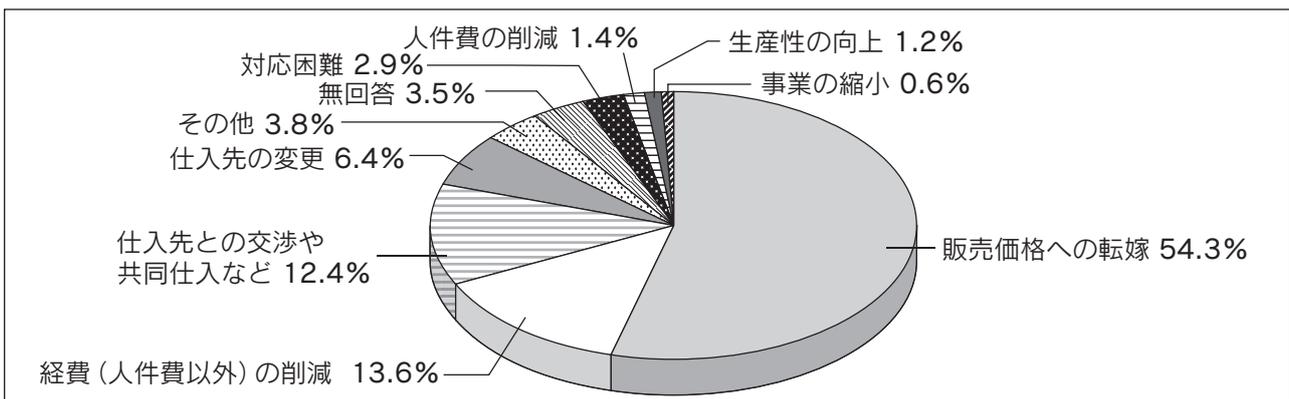
■ 原材料・仕入価格の上昇が経営に与えた影響は…「多少圧迫」が45%

原材料・仕入価格の上昇が経営に与えた影響は、「多少圧迫」が45.4%と最も多くの回答がありました。これに「かなり圧迫」の回答24.6%を加えると、7割の中小企業の経営が圧迫されているといえます。



■ 原材料・仕入価格の上昇が続いた場合の今後の対応について<複数回答> …「販売価格への転嫁」が54%

原材料・仕入価格の上昇が続いた場合の今後の対応については、「販売価格への転嫁」が54.3%と最も多く、次いで「経費(人件費以外)の削減」が13.6%、「仕入先との交渉や共同仕入など」が12.4%となっています。



お取引先企業様のご紹介

株式会社 フレッシュ

代表者 柴田 修丞
設立 昭和51年9月20日 従業員数 19名
所在地 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字穴口277-4
TEL 019-641-2445
FAX 019-641-2447

当社は、各種の帽子製造を中心に織物、縫製加工デザインの提示及び付随するミシンの刺繍、熱転写のプリント加工の一貫生産を行っています。また、自社の生産技術を用いて観光土産品、各種イベント等に使用するTシャツ、ブルゾン、キャップ等も製造販売しています。

昭和5年に家内企業として創業し、昭和51年法人化、通年受注の状況を生み出すために、一地域市場のみならず、中央へ取引先を求め、現在は関東、関西のウエイトを高めています。単価競争の激しい市場へ参入し、帽子の縫製工場として認められ、諸官庁、民需の製帽やアポロキャップ（ワークキャップ）等、東京ディズニーランド等テーマパークのデザイン提示を受け、スタッフの帽子の製品化を展開しています。

当社は、帽子の縫製部門の枠にとらわれず、広く新規分野に目を向け、その中で当社とマッチしたものを選択して参りたいと思っています。

当社は、「是非の初志忘るゝべからず、時々の初志忘るゝべからず、老後の初志忘るゝべからず」を motto に常に挑戦意識を持ち続けたいと思っています。

当社は、オリジナル刺繍による縫製加工及びエプロン、袋物、壁飾り等の商品開発を具体化させています。また、様々な小型の布製品など小ロットでも対応できる製造所として、お客様の要望に応えられるよう、進歩していきたいと思っています。

Commercial 商品紹介

■オリジナル刺繍



▲馬っこ



▲馬っこ:女の子



▲馬っこ:男の子

■半纏風Tシャツ



■アポロキャップ



■壁掛け(刺繍部分拡大)

株式会社 佐幸本店

代表者 代表取締役 佐々木 茂
設立 昭和28年6月1日 従業員数 30名
所在地 岩手県久慈市小久慈町2-2-15
TEL 0194-53-3121
FAX 0194-53-3700
URL <http://www.kibudou.com>
E-mail kibudou1@eins.rnac.ne.jp

当社は、岩手県内産ヤマブドウを利用した果汁飲料、ジャム等の製造販売および一般食料品卸売の企業です。

会社設立以来、サイダー、ジュース等清涼飲料水の製造販売を行い、昭和46年に国内初のヤマブドウ果汁100%飲料「山のきぶどう」を発売しました。と同時に、安定的な原料確保を目指し、ヤマブドウの無農薬栽培もスタートさせ現在に至っています。

当社は、平成15年に宝酒造「タカラ缶チューハイWミックス」への原料提供、平成19年にあさ開「山のきぶどう酒」への原料提供等を行いました。今後は異業種企業に対し、弊社ヤマブドウ果汁、ヤマブドウピューレ等の提案を行いながら飲料水製造企業から、プラス食品製造企業へと飛躍し、岩手産ヤマブドウの販売促進を図ってまいります。

平成20年4月1日より新発売の「山ぶどうとりんごのジャム」は岩手大学農学部との共同研究により、ペクチン、酸味料等不使用の無添加ジャムです。原材料は、岩手産ヤマブドウと東北地区産りんごピューレ、北海道産オリゴ糖の三種のみで製造しています。現代の消費者の皆さまの御要望を充分に満足させることが出来る「おいしさと身体へのやさしさジャム」です。

Commercial 商品紹介



山のきぶどう



商品等のお問い合わせは、上記お取引先企業様までお願いいたします